



春秋覇者の時代 (秦の穆公)

4月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年4月21日(金)

幽王が犬戎に殺され、周は都を洛陽に移した。

周は名目上の王でしかなく、一小国に過ぎなくなった。代わって諸侯が勢力を競い合う諸侯の盟主覇者の時代が始まる。

秦は周の東遷の際、犬戎と戦って周室保護に努めた功により、初めて諸侯の一員に加えられた。西戎の地に近い後進国であったが、九代目の穆公(BC659～BC621 在位)の時代に西北の雄として確固たる地位を固めてゆく。

穆公は宛にとらえられていた百里傒の評判を伝え聞き、この人物を採用したいと思った。大金を投じてでも惜しくはなかったが、そんなことをすれば、かえって宛が応じない恐れがある。

そこで一計を案じ、「下僕百里傒が抑留されているはずだが、殺羊の皮5枚と引換えに身柄をお渡し願いたい」と申し入れ、相手はその条件をのんで百里傒を返してよこした。この時百里傒は歳すでに70余であった。羊5匹と交換で得た百里傒は五殺大夫と呼ばれ、彼の親友蹇叔と共に穆公に仕えた。

穆公の12年、晋では旱魃のため穀物が採れず、秦に食料を要請してきた。食料は与えず、この機会に攻略すべきだという意見もあったが、穆公は百里傒たちの意見を聞いた。「飢饉と豊作とは代わるがわるやってくるもの、お与えになるのがよろしい」ということで食料を与えた。

14年、今度は秦が飢饉に陥り、晋に食料を要請した。ところが晋は、今こそ好機と兵を起こして秦に攻め込んできた。穆公自らも出陣した。

穆公が敵に包囲されて、手傷を負っているとき、突然救援に駆け付け、血路を開いてくれた見知らぬ一隊があった。おかげで危地を脱し、相手の王を生捕りにできた。これにはこんな経緯があった。昔、穆公の名馬が逃げ出し、岐山のふもとに住む無法者300人余が、この馬を捕まえて食ってしまった。役人が彼等を捕らえて殺そうとしたとき、穆公が「君子は畜生を殺されたからといって、人を傷つけたりはしないものだ。それよりも、名馬の肉を食った時は、酒を飲まないと身体に毒ではないか」と、酒まで与えて全員を放免してやったことがあった。彼等は穆公が窮地に陥ったのを見て、死を賭して突撃し、馬を食った時の恩に報いたのである。

37年、穆公は由余の作戦計画に基づいて西方の蛮族、戎を討伐した。戎王治下の12の国を併呑し、領土を広げること千里に及び、ついに戎を支配下においた。天子は穆公に金鼓を贈りその功績を讃えた。

参考：(司馬遷史記、秦本紀、徳間書店)